第19回IFPW総会に参加して

（社）日本医薬品卸業連合会
会長　別所芳樹

第19回IFPW（国際医薬品卸連盟）総会が10月22日、23日の２日間の日程でメキシコ合衆国カンクンにおいて開催されました。日本からの参加者は58名で、世界22カ国から214名が参加し、熱心な討論が行われました。

今回の総会は、「医薬品卸が繋ぐ医療の絆―物流を超えた付加価値サービスの提供と薬局ビジネス（Wholesalers：The Vital Link in Delivering Healthcare－Beyond Distribution Through Integrated Services & Retail Pharmacy）」をテーマに、世界の製薬企業、医薬品卸企業、小売企業の幹部が、著しく変化する医薬品市場や、それに伴う自社の経営戦略を紹介しました。

また、数多くのセッションにおいて、ジェネリック、スペシャリティー、バイオシミラー医薬品が取り上げられており、市場規模が拡大しつつあるこれらの医薬品について、世界中の関心の高さを示すものでした。

講演では、ジェネリックを使うことで非常に大きなコスト削減が図られ、その資金を次の投資につぎ込める一方、特にアジアやラテンアメリカにおいては、高齢化に伴う慢性疾患の増加や、中流階級の増加に伴い健康管理に関するコストが大きく伸び、医療費の削減を図りたい政府を悩ませているとの報告もありました。

ビジネスプログラムにおいては、日本を代表して眞鍋雅信氏（㈱ほくやく社長）に、「特殊医薬品と未来の医薬品」と題する、大変に流暢な英語での講演をいただきました。眞鍋氏は、特殊医薬品の管理や取扱について、日本では厳しいルールがあるものの、医薬品卸は慣れており負担と感じていない、と述べ、日本の皆保険制度、高額療養費制度、HTAに対する論議も紹介しました。

総会の最後に行われるIFPW理事による、「流通の未来」についてのパネルディスカッションでは、長谷川卓郎氏（㈱エバルス社長）に参加いただき、東日本大震災におけるIFPWの支援について日本卸を代表して謝辞を述べていただきました。

なお、総会に先立ち21日に理事会が開催され、長谷川理事と参加いたしました。３年間理事を務められ、今回退任する長谷川理事の後任として中北馨介氏（中北薬品㈱社長）が理事に就任されること、次回2014年の総会を中国・北京で開催することが承認されました。

また、総会期間中に、中国医薬商業協会、韓国医薬品都売協会の代表者と会談を行い、今後の３か国医薬品流通フォーラムについての検討を行い、第１回フォーラムは2013年の10月に東京において開催することを確認しました。

最後に、多くの会員の皆様に参加していただき、今大会が成功裏に終わったことに、IFPW理事として心より感謝を申し上げます。